

対話でつなぐ連続座論：都市空間のレシピ

#2 浮庭橋：多様な想いをつなぐ架け橋 -水辺空間づくりのターニングポイント-

ゲスト：生嶋圭二氏、萩森薫氏、小松靖朋氏、内藤俊彦氏

レポート：久保達哉（大阪府立大学大学院）

レシピ#2は大阪の道頓堀川に架かる「浮庭橋」です。道頓堀というと、グリコ、かに道楽、食い倒れ太郎など戎橋の近くのコテコテの大阪が思い浮かびます。ところが、浮庭橋は戎橋にほど近い（戎橋から西の方角、道頓堀川沿いに500mくらいの）場所にあるのですが大人のムードが漂うおしゃれなレストランやバーの並ぶキャナルテラス堀江が右岸に、左岸には一風変わった建築物の港町リバープレイスがあるコテコテとは程遠いおしゃれな空間に架かる橋です。



●浮庭橋は“シーフードパスタ”

今回はそんなおしゃれな浮庭橋のレシピ#2ですが、食べ物でいうと個人的にシーフードパスタになんか似ているなあとおもっています。シーフードが好きで週に一度はシーフードの食事をつくったり、食べに行ったりするのですが、殻つきの貝が入ったシーフードパスタなんて食べるとおいしくてちょっとおしゃれな気分です。ということで、浮庭橋の出来た経緯と空間の個人的な感想をシーフードパスタの晩御飯のような感じでレポートしてみたいと思います。

【献立】浮庭橋＝シーフードパスタの晩御飯…パスタ：リバープレイス、ソース：浮庭橋、
サラダ：キャナルテラス

【調理】浮庭橋のつくり方には10のポイントがあります。

- ①左岸、右岸の区画整理(S37～)：まずシーフードの解凍、なにはなくともシーフードの解凍が一番です。
- ②湊町地区総合整備計画(S62)→ルネッサなんば(H4)：シーフードが解凍されてきたところで大きな鍋でお湯をつくります。ぐつぐつ。そしてパスタを投入。
- ③南堀江特定街区(H4)：なんとといってもシーフードパスタにはサラダ、栄養が偏ってはいけません。まずレタスをちぎります。
- ④道頓堀川水辺再生事業(H7)：サラダといえばトマト、くし形に切ります。トマトだけでもおいしそう。
- ⑤BLEU 開業(H13)：きゅうりを薄切りに、サラダのイメージがみえてきました。
- ⑥堤防・遊歩道の整備協議(H14)：サラダの味をまとめあげるドレッシングが必要です。オリーブオイルをボウルに投入。
- ⑦湊町リバープレイス設計・施工(H14)：さあパスタが茹で上がりそうです。アルデンテは譲れませんからまだ作業があるのでやや固めでざるにあげます。
- ⑧南堀江地区計画(H16)：ではサラダに戻ります。すりおろしニンニクとレモンを少々オリーブオイルの入ったボウルに投入します。
- ⑨キャナルテラス堀江の設計・施工(H20)：ボウルに野菜を放り込んでよく混ぜます、サラダの完成。
- ⑩浮庭橋の設計・施工(H20)：さあメインのソース作りです。フライパンのうえで実は殻つきの貝と解凍したシーフードがオリーブオイル、白ワインとともに煮えています（浮庭橋デザインコンペ(H17)）あとはホールトマトを放り込んでぐつぐつしてきたら塩コショウで味を調えます。火を止めてざるのパスタをフライパンに投入、余熱で少し混ぜたら完成です。

【実食】まずサラダから。おしゃれなルックスです。サラダのテーマは6つもありますが、食べて印象的なのはドレッシングの配合割合が絶妙なところ。キャナルテラス堀江は一階と二階の高さが絶妙なバランスで設計されていて一階が極端に高く、二階が低い設計になっています。つぎにメインのソースがかかったパスタ、くるくるとフォークに巻くとまるでリバープレイスの円形状の階段のようです。ソースは様々なシーフードによって個性的な味わいになっています。浮庭橋はリバープレイスの前にいる若いお笑い芸人の卵、MTBでアクロバティックな遊びをする人々、おしゃれな格好のカップル、たまに行われるフリーマーケット等、キャナルテラスの結婚式などさまざまな活動をみることで空間で、いつ訪れても(夜中は閉まっていますが)人が滞留する空間をみる良い視点場になっていると思います。

●クロストークとまとめで印象に残った発言と感想



生嶋氏



(左から) 萩森氏、内藤氏、小松氏

- ・設計する際に関係者で話し合いができる面白かったと思う
⇒今回の浮庭橋とキャナルテラスのように同時進行の計画であれば調整がかなり意味を持つのではという意見がありました。また、他の登壇者から、それぞれの主体が関係をそれぞれ読み解くのもおもしろいという趣旨の意見がありましたが、両方ともに重要だと思いました。
- ・橋は大阪の文化で、なにか面白い橋を架けようという風土が大阪にはある
⇒大阪は八百八橋とよばれた橋の風景に特徴づけられる街であったということを知っていましたが、研究会に参加して実際に大阪には浮庭橋以外にもコンペで橋の設計を行ったところがあるということを知って現代にもものこる風土、地域性に感心しました。
- ・インフラ整備で今必要なもの、今後必要なもの、コンペの回数が多いのは余裕がある
⇒今回の浮庭橋はデザインコンペが開催されて内藤氏が最優秀を獲得し、実施設計の企業と組んで実現した公共建築物の事例です。内藤氏のデザインコンペの話やパースが興味深かったです。また、最近話題の新国立競技場のデザインコンペでザハ・ハディドが最優秀だったものの、実施設計で提案を変えられてしまうので、デザインコンペの著作について問題があるといったことを記事で読む機会がありました。公共建築、建造物のデザインコンペの実際の手順などの国内外の違いなども気になっています。
- ・予定調和は面白くない、いろんなスケールの余白が必要
⇒都市空間をつくるといったときに思い浮かぶのが私の好きな天六や天満の境界です。果たして天満の街の雰囲気は計画して作れるものだろうかといつも訪れるたびに思いますが、余白を考えることは私の好きな都市空間のレシピを考える上で非常に重要な考えなのかなと今回のレシピ#2で思いました。